



機能と美しさを融合させたフロントスポイラー。真正面から見た時の逆台形のフォルムから、安定感ある台形フォルムへ。価格：6万9300円



コーナリング時のリフトを抑えつつ、安定感あるフォルムを演出するサイドスカート。リアブレーキとデフの冷却口付。価格：9万4500円



アンダーステア傾向の強い159の特性を考え、敢えて小さめのスポイラーとしている。トランクリッド一体型も用意される。価格：4万8300円

## TEAM KEEP ON RACING & TEZZO 理想のスタイルが完成した！

TEZZOの159が完成した。性能を突き詰めたら、必然的にデザインも決まつたというエアロバーツ。そして、同じく性能を重視したら音質もスタイルも両立したマフラー。太田哲也が全てに拘った、TEZZOのアイテムを紹介しよう。

文：鶴岐麻里奈 撮影：神村 聖 問：TEZZO <http://tezzo-style.ocnk.net/>  
協力：チェックカーモータース/プロドライブ/ボテンザ



[連載] Vol.39 最終回

ようやく完成の域へと達したTEZZO159。クルマのキャラクターを考え、派手すぎずそれでいて精悍な印象を与えるデザインとしている。車高はややローダウンされているが、それ以上に低く安定した



アルファらしくないと見えるらしい。それを改善するためTEZZOではフロントスポイラーに加えて、サイドスカート、リアスポイラーの開発に入った。といつても、単にカタチだけではなく、機能も重視しないと意味がない。フロントスポイラー同様、サイドステップもまたサーキットからの要求だった。

今季、太田はアルチャレに159-3・2で参戦している。それまでいくつかの改善すべき箇所が浮き彫りになつた。それは、Q4のリアデフの熱対策だ。こうして、太田は森田にリアセクションを冷やすダクトを装着したサイドスカートの製作を依頼した。サイドスカートは、コーナリング中にサイドから空気が流入し車体をリフトさせることを防ぐ効果がある。さらに太田はエアダクト付近の傾斜面でダウンフォースを得られるようなカタチを望んだ。もちろん外見上、フロントスポイラーで造った台形をサイドにつなげる意図もあった。

森田は、まず純正でサイドスカートを装着するT-1を研究し、その箱形の形状からコーケボトルのようにボディ側面で絞らせ、さらにリアホイールに向かって開くような3次曲線を描かせることにした。このカタチはサイドに空気をきれいに流し、ダクトに導く効果もある。機能

「革の皮を被った狼という表現があるけど、あまりに半では淋しいよね」  
先代156の日本に導入された生デルテップがなく据が萎んだ逆台形の標準型が導入された。156ユーパーから見ると159はスピード感がスピードされ、アルファらしくないと見えるらしい。それを改善するためTEZZOではフロントスポイラーに加えて、サイドスカート、リアスポイラーの開発に入った。それとも、単にカタチだけではなく、機能も重視しないと意味がない。フロントスポイラー同様、サイドステップもまたサーキットからの要求だった。

今季、太田はアルチャレに159-3・2で参戦している。それまでいくつかの改善すべき箇所が浮き彫りになつた。それは、Q4のリアデフの熱対策だ。こうして、太田は森田にリアセクションを冷やすダクトを装着したサイドスカートの製作を依頼した。サイドスカートは、コーナリング中にサイドから空気が流入し車体をリフトさせることを防ぐ効果がある。さらに太田はエアダクト付近の傾斜面でダウンフォースを得られるようなカタチを望んだ。もちろん外見上、フロントスポイラーで造った台形をサイドにつなげる意図もあった。

TEZZOエアロバーツは、マスターを何度も作り直し、レースカー及びデモカーにその都度装着し、検討してきた。TEZZOエアロバーツは、マスターを何度も作り直し、レースカー及びデモカーにその都度装着し、検討してきた。TEZZOエアロバーツは、マスターを何度も作り直し、レースカー及びデモカーにその都度装着し、検討してきた。TEZZOエアロバーツは、マスターを何度も作り直し、レースカー及びデモ

TEZZOのショールームがオープン！



ラインナップの拡充に伴い、いよいよTEZZOのショールーム「TEZZO STYLE」が、12月10日に横浜港北ニュータウンにオープンする。デモカーやバーツの常時展示はもちろん、イベントや最新のクルマ情報など、これまでにはない新しいスタイルのお店となるそうだ。

■横浜市都筑区荏田東1-9-40 TEL: 045-948-5535

にこだわった結果、流れるようなラインが生まれたのだ。このレースカーの形状をそのまま量産車にも投入した。  
159はアンダーステア傾向が強いので、リヤのダウンフォースをあまり必要としないことが、やはりサーキットにおいてわかつていて。そのため、リアスポイラーは、小型のものとした。当初は上面を平らにすることも考えたが、後ろから見ても美しいカーブを描くボディラインを嫌さないようデザインした。  
ところが、ボンネットはトランク上部だけでなくサイド部分までつながったラインを描く。トランク上部だけにつけるリアスポイラーでは、そのラインに合わせられない。そこで、森田は頭を悩ませ、試作から量産化にする際に斜めに凹みを入れたラインに変更した。太田も「3次曲面が美しい」と気に入っていた。

TEZZOエアロバーツは、マスターを作り、ディテールが見た目のクオリティをあげるのだ。機能美。それが、物作りのひとつの中だ。そして、実際に走らせてみるとピタリと路面に吸い付くような効果を実感できるはずだ。